今月の御教え

人間を軽う見な。軽う見たらおかげはなし。

……金光教祖御理解　第七十二節……

解説　この御教えは、本来は『取次者を軽く見たらお蔭を受けられぬ。』ことを教えられた御教えでありますが、それが転じて、『人間は皆神の氏子であるから、見かけや地位などによって見下したりしてはならぬ。』との教えにもなったのであります。

教祖金光大神様が御神命により、このお道を開かれ、その御蔭の顕著なること近隣に伝わり、遠く関東、九州まで及び、多くの人々が参拝しては、『生神様』と頂き多大なる御蔭を受けました。しかし、教祖様の村ではそのような大御蔭を受ける人が少なかったので、その理由をお訊ねすると、「私を肥かたぎの金神と思っているからであろう。」とのお言葉であった。それは、村の人々の教祖様に対する思いが「いくら生神様じゃとて、本は同じく農作業に精を出した百姓同士じゃ。」との事を示したお言葉でした。

即ち、いかに霊験あらたかな親神様であっても、大御蔭を頂けるか頂けぬかは、頂く側の姿勢にもあることを教えられた御教えであります。

さて、いよいよ本部広前の生神金光大神大祭が近づいてまいりました。

ここから一層信心の稽古に励み御蔭を頂きましょう。